



THE ROTARY CLUB OF SADOWARA WEEKLYBULLETIN

# 佐土原ロータリークラブ週報

【多士済済】(たしせいせい)

優秀な人材の集まりをあらわす



Lend a Hand

手を貸そう

2003-2004年度 国際ロータリーのテーマ

## 職業奉仕米山月間

第811回 平成15年10月29日(水)

### 〔本日のプログラム〕

- |             |              |
|-------------|--------------|
| 1. 食        | 事            |
| 2. 点        | 鐘            |
| 3. ローターソング  |              |
|             | 「それでこそロータリー」 |
| 4. 四つのテスト唱和 |              |
| 5. 会長の時間    |              |
| 6. 幹事報告     |              |
| 7. 委員会報告    |              |
| 8. フォーラム    |              |
|             | 米山月間にあたって    |
| 9. 点        | 鐘            |

- 次回予告
- ★11月5日(水)
    - 会員卓話
    - 福井 輝文君
    - 11月セレモニー
    - 理事・役員会
  - ★11月12日(水)
    - 職場訪問

### 佐土原ロータリークラブ

例会日	毎週水曜日(12:30~13:30)	会長	中武 幹雄
例会場	石崎浜荘 ☎0985-73-1913	副会長	林 厚雄
事務局	宮崎県佐土原町大字下郷阿3887-17 ☎880-0212	幹事	梶田與之助
	TEL.&FAX 0985-73-7170	会計	岩切 正司
		総務	池田 仁志

## 第 8 1 0 回例会記録

(2003. 10. 22)

### ☆会長の時間

会長 中 武 幹 雄 君

皆さん今日は。本日は第810回の例会で、ガバナー公式訪問当日になりました。

それでは公式訪問にお見えになりました、ガバナーとガバナー補佐をご紹介致します。第2730地区ガバナー 吉松成人君、(都城中央RCに所属)ガバナーのご履歴の詳しい事は、公式訪問報告書6頁をご覧ください。

ガバナー補佐、鳥山 浩君、ガバナー補佐は先だっのクラブ協議会に訪問され、皆さん良くご存知でありますので、割愛させて頂きます。お二人には例会後のクラブフォーラムで今後の当クラブの活性化等についてご指導頂きたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

先刻、新入会員との懇談会も無事終了しました事を皆様に報告いたします。

先週の土、日に開催の地区大会には沢山の会員に参加頂きまして、有り難うございました。大きな行事が終わる毎にホッとしております。

近頃、朝夕がめっきり寒くなりました。暦の上では「霜降」(そうじょう)と云い、早朝の淡い霜を見て、冬の間近を知る頃、とあります。

先週は“ロータリーのモットー”の提唱者アーサー・フレデリック・シェルドンについてお話しさせて頂きましたが、今日は、家庭集会の始まりについて、インターネット等で調べた事をご紹介します。

以前は家庭集会の事を「Fire side meeting」炉辺会合と言っていたそうです。このFire side meeting が初めて行われたのは、1937年(昭和12年)のある夜のことだったそうです。シカゴRCの会員、ハープ・アンジェスターが、シコゴ郊外のハイランドパークという所に新しい住居を構えました。勿論新天地ですので、彼は近所に知人、友人は全くおり

ませんでした。そこで、彼はシコゴクラブの事務局に頼んで、ハイランドに住むロータリアンを調べてもらいました。素晴らしい事に、そこには12~13名のロータリーメンバーが居ることが分かりました。彼はその中の数人を自宅に招待し、非公式のロータリーの会を開いたのです。みんなが暖炉のそばに集まり、ロータリーの事や、近くフランスで開催される国際大会のことなどを楽しく語り合った、と言われております。ちなみに、その年度(昭和12年)の国際ロータリー会長は、フランスのモーリス・ジュベリーでした。その後、このような会合を他のロータリアン達も開くようになり、誰ということなく、この会合がFire side meeting と呼ばれるようになったのです。やがて、それが次第に拡大して行き、現在は世界中のロータリークラブには欠かせない、非公式行事の一つとして続いています。このFire side meeting が世界中に広まった理由は、社交的な雰囲気を持ち、親睦が最も優先されたためで、しかも話題がロータリーに限らず、カントの哲学から、ピーナッツの値上がりに至るまで、あらゆる方面に自由に発言出来るとう、文字通りの形式ばらない(informal) (気軽) 点であったという事です。例えば、ある夜の話題はChewing fat (噛め糞) でした。すると一人の文学部教授がChewing fat なる言葉の由来を次の様に説明したそうです。シェイクスピアの時代には、人々が招待されると、どの家も暖炉のそばにベーコンを吊り下げておき、話ながら、お客様はそれぞれ自分の分だけベーコンを切り取り、それをしゃぶりながら、話し合ったと言う事でした。その後、英国では、Chewing fat を心に浮かんだ事を何でも議論する、という意味になってしまったそうです。勿論、ロータリーにこのような現象が起こることなど、ポール・ハリスは予想もしませんでした。それは、間違いなく、ロータリアン達に喜ばれていたのです。

1964年(昭和39年)の統計では、全世界のロータリークラブでおおよそ、25,000回のFire si

de meeting が開かれたそうです。

今日は家庭集会の始まりについて述べさせて頂きました。

一口ことわざ

“女ならでは夜が明けぬ”

天鈿女 命 (あまのつゆのみこと) が岩戸に隠れた天照大神を外に出すため踊り続けて岩戸を開かせた伝承から、女がいないと何事も旨く行かないという事のたとえ。

☆幹事報告

幹事 梶田 與之助 君

1. 例会変更通知

①10月27日(月)の例会は職場訪問の為、  
場所 蒲田補聴センターに変更  
宮崎南 RC

野菜の話

【牛蒡】

ごぼうはキク科の2~3年草で、原産はヨーロッパ、シベリア、中国南北部に分布し、わが国へは千数百年前に中国から葉草として渡来しました。食用とするのは、日本と韓国だけです。日本向けに中国で栽培されておりますが、中国人は食する習慣はありません。滝野川ごぼうを代表する根が長いごぼうの産地は殆ど関東で、代表的な京野菜で、堀川ごぼうを代表する根の短いものは関西で作られています。ごぼうは、セルロース、リグニンなどの食物繊維を多く含み、整腸作用を促し、コレステロールを抑えて、動脈硬化を防ぐ効果があります。又、食物繊維は腸内の発ガン性物質を吸着する働きがあるため、大腸ガン予防の効果もあります。さらに肝臓機能を高め、利尿効果のあるイヌリンを含んでいません。血糖値降下作用もあって、糖尿病にも有効です。肉類の食あたりにごぼうを煎じて飲

むと効果があります。虫刺されやあせも、かぶれなどには根や葉のおろし汁を患部につけます。根と葉5~10グラムを1カップの水で煎じ冷ましたものでうがいをする、口内炎、扁桃腺炎などに有効です。県内の産地は、えびの、小林、都城、西都で春と秋に種を蒔くので、1年中出回っています。夏前に出るのが、新牛蒡で、旬は11月~1月頃です。

☆出席報告

委員長 後藤 明夫 君

会 員 数	27名
例会出席者	26名
出席率	96%
メーカーアップ者数	1名
修正出席率	100%
欠席者名	なし

本日はガバナー、ガバナー補佐の訪問を受けました故か、100%出席を達成出来ましたありがとうございました。

♡♡♡♡♡♡♡♡♡♡  
Happy Voice

結婚祝い、有り難うございました。結婚44周年を迎えます。お互いに労り合い、健康に留意して、少しでも人様の役に立つ生活を送りたいと願っています。 山崎 忍 昭代

結婚祝い、有り難うございました。30周年になりました。 村岡 博 康子

人生の折り返し点は既に過ぎましたが、これからは充実したライフワークになるべく、努力し、頑張りたいと思います。有り難うございました。そして結婚祝いも戴きました。結婚何十年になるか、数えてみないと分かりませんが、これからは手を取り合って仲良く過ごしたいと思います。 鬼塚 圭司 幹子

2003.10.22 公式訪問時アドレス  
『ロータリーの奉仕について』  
R1第2730地区ガバナー  
吉松成人君

自分の職業に天職と言う使命を与えてくれ、又その職業を立派に続けさせてもらっている社会に感謝する必要があり、感謝の仕方即ち奉仕の仕方の基本として、個人生活、社会生活、職業生活において利己的欲求は最小限に留め、常に最大限に利他を求め続けることがロータリーの奉仕の理念であると言われている。

一方、物心両面において利己と利他を融和させようとする心がロータリーの奉仕の概念であるとも言われている。

1923年の決議23-34によって「奉仕する者は行動しなければならない。」ことが提唱され、ここで初めて奉仕における行動の必要性が論じられた。更に、ロータリークラブは会員個人としても、クラブとしても社会奉仕を行ってよいことになり、精神的、内面的自己探求型の奉仕から大きく飛躍して現在に至っている。

ロータリーの奉仕の歴史を回顧してみると、創立期(1905~1906)は会員の親睦が第一で、特に物質的相互扶助が主であった。1907年にポール・ハリスは親睦と自己研鑽のエネルギーを世のため、人のために尽くし、地域社会に貢献しようと考え、「親睦」を基調として自己研鑽、自己改善に努力する奉仕の概念を創出した。1908年ミシガン大学出身のアーサー・F・シェルドンは、「経営の要諦は奉仕にあり、奉仕の理想を実現させるにある。私利私欲の追及と社会的責任の履行を同次元に考え、利己と利他を調和させる精

神世界が奉仕である。」と示唆した。

1927年以前はこのように自己研鑽と自己改善のことを「奉仕」と呼んでいて、まだ理念の段階であり、正確には「奉仕の心」と言うべきものだと考えられる。

ロータリーの成長期において、実践派と理論派の論争が激しくなりロータリーが危機に直面した時に、この意見の対立を解消させ、ロータリーを大同団結せしめ、かつ今日のロータリー運動の核心となったものが決議23-34（社会奉仕に関するロータリーの方針）である。

その趣旨は、『①奉仕の哲学と奉仕に対するクラブの団体行動の在り方。②各ロータリークラブはその奉仕活動を行うに当たり完全な自主独立性を有すること。③各ロータリークラブは他クラブの活動を無視、軽視してはならない。』である。

これに基づいて、ロータリークラブは会員個人としても団体行動としても社会奉仕を行ってよいことが確立された。

このことは職業奉仕についても言えることである。

1935年の国際大会で「ロータリー綱領」が現在のように決定した。その第3、第4部門で奉仕の実践が述べてある。

「ロータリーは親睦の中から奉仕の理想を生み出す集団」であり、又「ロータリークラブは奉仕をする団体ではなく、奉仕する人の集まりである」と言える。

職業奉仕とは、ロータリアンがいかに生きるかという生活態度であり、それぞれの職業を通じて他人に幸福をもたらすこと、即ち他人に奉仕することであるとされている。職業奉仕の根底は、クラブで培われた奉仕の心を自分の職業に生かし、自分の職業を通じて社会に貢献することである。（紙面の都合で要旨に短縮させていただきました。ご容赦ください。）